

## 王子保小学校の国語・算数の力と、学習の様子

4月に6年生を対象とした、全国学力・学習状況調査が行われ、この程、その結果概要が公表されました。本校でも、全国や県、市との比較をしながら、児童の傾向について分析を行いました。良かった所はさらに引き伸ばし、苦手だった所には対策を立てて、これからの児童の学習等に活かしていきたいと思えます。



### 【国語の力】

基本的な“知識”に関する問題では、「～たり、…たり」を使った文を作ったり、文脈を考えて適切な接続詞を選んだりする「書くこと」の力が身につけてきています。一方で、「百聞は一見にしかず」「五十歩百歩」などの故事成語の意味を理解したり、「はかる」の同訓異義語を正しく使ったり、正確に漢字を書いたりする「基礎的な言語に関する力」には課題があるようです。

“活用力”を問う問題では、問いに対して意欲的に自分の考えを文章で答えようとしており、全国に比べ無回答率は非常に低くなっていました。自分の思いや考えを素直に文章で表現できる力が身につけているようです。ただ、二文を一文にする、「例えば」の表現を使うなど、条件を満たして表現することは苦手のようでした。

#### ＜対策＞

全体的に、長文に挑戦し自分の思いを伝えようとする力がついてきていますが、次のような機会を増やし、苦手だった分野を克服していきたいと思えます。

- ・日常的に、辞書を使って故事成語や四字熟語、ことわざなどについて調べる機会を増やし、朝の会や帰りの会でも調べた言葉を活用して伝え合う活動を増やします。
- ・複数の条件を一度に満たした文章を書くことは難しいので、まずは、一つの条件を満たした文章を短い文で的確に文章表現する練習を増やします。



### 【算数の力】

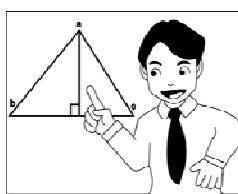
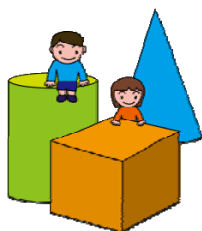
主として“知識”に関する問題では、「数量関係」を問う問題などで正答率が高く、他の領域も万遍なく力をつけていることが伺えます。しかし、平行四辺形の性質や直方体の面の形を問う「図形」領域の問題は正答率が低く、苦手としている傾向にあります。

“活用力”を問う問題では、国語同様に無回答が非常に少なく、困難な課題に対してもあきらめず解こうとする態度が読み取れました。しかし、解き方や理由を、算数的用語を使っただけに表現する力には課題があるようです。

#### ＜対策＞

算数では筋道を立てて、一つ一つ課題を解決していく力が必要です。本校の児童は、その過程で根拠や裏付けを意識せずに回答してしまう傾向があるようです。そこで、次のような指導に取り組んでいきたいと思えます。

- ・公式などを使った立式はできても小数点の処理で誤答になる児童が多かったので、まずは定期的に小数や分数などの計算プリントを実施して計算の力の定着を図ります。
- ・「図形」領域の学習では、教材などを活用して操作活動を積み重ねていきます。
- ・「算数的用語」を使って解き方を説明し合うペア学習を取り入れたり、振り返りで学習したことが日常的な生活の場面にどのように活用されているか考えさせたりするようにします。



## 【学習・生活の様子について】

学力調査に合わせて学習や生活の様子についてのアンケート調査が行われました。全国の結果と本校の児童について比べてみると以下のような傾向がありました。

### 【ポイントが高かった内容】

- ・ 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想や説明文を書くことは難しいと感じていない。
- ・ 読書は好きであり、普段（学習時間以外）の読書をする時間が多い。
- ・ 毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きている。
- ・ 将来の夢や目標を持っている。
- ・ 総合的な学習で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと感じている。
- ・ 新聞を読んでいる。
- ・ 学習塾で勉強をしている子が少ない。

### 【ポイントが低かった内容】

- ・ 難しいことでも失敗を恐れずに挑戦する。
- ・ 友達の前で自分の意見を発表するのが得意である。
- ・ 友達に伝えたいことをうまく伝えることができる。
- ・ 家の人と学校の出来事について話す。
- ・ 5年までに本やインターネットで調べる学習をした。
- ・ 5年までに友達と話し合う活動をよく行った。
- ・ 話し合う活動を通して、自分の考えを深めたりひろげたりできていると思う。
- ・ 国語の勉強は好きである。
- ・ 算数で難しい問題に出会ったとき解いてみたくなる。
- ・ 算数の問題がわからないとき、諦めずにいろいろな方法を考える。
- ・ 算数の学習を普段の生活に活用できないか考える。
- ・ 総合的な学習の時間で課題を立て、情報整理して、調べたことを発表している。



規則正しい生活を送り、読書好きの子が多いことは喜ばしいことです。また、将来の夢に向かって真面目に取り組んでいることも伺えます。しかし、ポイントが低かった内容を見ると、学習面での自己評価が低いようです。学力調査では、無回答率が非常に低く難しい問題にも諦めずに取り組んでいたのに、アンケートでは渋めの評価をしています。自分に自信がないことの表れだと思われます。また、みんなの前で考えを発表することが苦手なことも、5年生までの話し合い活動が不十分だったことが原因の1つとして考えられます。

学校でもこれらの結果を真摯に受け止め、小人数での話し合い活動の機会を増やしたり、様々な学校生活を通じて子どもたちを認めてあげたりしながら、授業改善をして指導にあたりたいと思います。

